

柱1 災害を自分事化する

【目指すべき姿】

地域の一人ひとりが、自然災害を正しく理解し、自分の命は自分で守る意識を高め、主体的に防災に取り組む

主体：自主防災組織等



取組みの背景・意義等

【背景】

- 災害は発生形態も頻度も地域差が大きく、多くの住民は自分の地域で何が起こりうるか十分に理解できていない状況にあります。また、防災が生活の中で身近に感じられにくく、訓練への参加意識も低くなりがちです。
- さらに、現役世代は日常的な忙しさから、長時間の学習・訓練への参加が困難です。

【意義等】

- 自主防災組織は、地域の暮らしをよく知る地域住民により組織されています。そのため、住民一人ひとりが、日常生活に合わせた防災学習を企画・実施し、「自分のこととして行動できるイメージ」を持てるようにすることが大切です。

主な役割と取組み例

【主な役割】

○住民が地域の災害リスクを正しく理解し、主体的に防災に取り組めるようになる防災学習の展開

- 自主防災組織は、地域の危険箇所を住民とともに確認するとともに、防災に関する学びの場を設けるなど、住民が自らや家族を守る行動を取ることができるように、誰もが防災を「自分のこと」として主体的に取り組める地域づくりを推進する役割を担っています。

【取組み例】

○地域の災害リスクの理解

- 自分が住む地域の特性等を知るための取組みの企画・実施
- 防災まちあるきの企画・実施
- ハザードマップを活用した訓練 など

○主体的に防災に取り組めるようにする防災学習

- 避難所運営ゲーム（HUG）や図上訓練（DIG）の実施
- 親子連れや現役世代が参加しやすい防災イベントの開催 など

取組みの参考となる事例

- ◆ 多様な住民が参加しやすい地域防災研修会
..... P41
- ◆ 子どもたちのサマーキャンプにおける防災学習
..... P45

柱2 地域の防災活動の実効性をあげる

【目指すべき姿】

地域に属する一人ひとりの防災意識の向上を図り、地域内の連携を促進し、地域住民が互いに助け合い、自分たちの地域は自分で守る

主体：自主防災組織等

取組みの背景・意義等



【背景】

- 地域防災は、住民同士のつながりと協力があって機能します。しかし、地域コミュニティの希薄化や高齢化により自主防災組織が十分に機能しないなど、地域によって災害時の対応に大きな差が生じています。また、地域社会のそれぞれ（自主防災組織、学校、事業所、福祉団体等）の個別の取組みだけでは限界があります。

【意義等】

- 日ごろから地域の防災活動の連携体制を整えることで、災害時に住民同士が助け合い、迅速で実効性のある対応が可能になります。また、自主防災組織が地域の課題に応じた活動を主体的に進めることで「共助」の力が高まり、地域全体の防災力向上につながります。

主な役割と取組み例

【主な役割】

○地域防災の中核として、住民同士が助け合う体制を整え、
地域の状況・災害特性を踏まえながら災害時に機能する「共助」の仕組みを確立

- 自主防災組織は、災害時に「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の要です。地域特性を踏まえた実効的な活動を展開することが大切です。

【取組み例】

○顔の見える関係と気軽に関われる環境づくり

- 地域の行事（運動会、芋煮会等）と防災訓練を組み合わせることによる参加しやすい環境づくりと住民同士のつながりの深化 など

○地域の状況や特性に応じた実践的な訓練等の実施

- 昼と夜で地域住民の構成が違う（例：昼は職場・学校、夜は自宅）ことを踏まえた行動計画（タイムライン）作成
- 実際の被災地の実例を学ぶ機会づくり（現地へ行く・外部講師として経験者をお招きする等）
- 継続性のある取組みとなるような中長期的な訓練プランの作成 など

取組みの参考となる事例

- ◆ 学校と地域による避難所開設を想定した連携体制の構築 P51
- ◆ しばはし防災ネットワークによる地域の防災力向上 P53

柱3 幅広い担い手を育成する

【目指すべき姿】

地域防災の中核となり、積極的かつ主導的に活動できる専門的な知識と技能をもったリーダーや担い手を育成する

主体：自主防災組織等



取組みの背景・意義等

【背景】

- 地域の防災力を高めるためには、地域防災の中核となって活動する担い手の確保が不可欠です。しかし、少子高齢化や昼夜間人口差の拡大等により、地域の防災活動を担う人材が不足しています。また、防災士や防災に関する専門知識を持つ人材がいても、その力が十分に活用されていない現状があります。

【意義等】

- 地域の将来を見据え、次世代の担い手を育成するには、防災学習を通じて地域の状況や課題を理解し、ともに活動し、技術や知識を継承する仕組みを整えることが大切です。

主な役割と取組み例

【主な役割】

○将来にわたって災害に強い地域づくりを目指し、地域防災の中核を担う人材の発掘・育成

- 地域防災を継続して支えるため、次世代のリーダーや実践的に活動できる人材を発掘・育成します。平時から地域の防災課題を共有し、若い世代や新しく参加する住民が学びやすい環境を、多様な担い手の参加を促します。

【取組み例】

○次世代リーダーの発掘と育成

- 地域で主体的に活動できる人材を、県や市町村が実施する講習会・研修会の推薦 など

○実践的な経験の継承

- 地域防災の担い手が培ってきた地域の災害特性に関する知見や防災ノウハウを、訓練や交流を通じて次世代へ伝承 など

○地域全体で人材を育てる環境づくり

- 学校や事業所等と連携し、幅広い世代が防災に関心を持ち、活動に参加できる環境を創出
- 地域行事と防災を組み合わせるなど、楽しみながら防災を学ぶ機会を創出
- 親子防災キャンプ開催 など

取組みの参考となる事例

- ◆ 自主防災組織リーダー研修会

..... P63

柱1 災害を自分事化する

柱2 地域の防災活動の実効性をあげる

柱3 幅広い担い手を育成する

県
市町村
自主防災組織等
学校・教育委員会
事業所等
福祉団体・福祉関係者
地域住民